



発行人 福島県教職員組合  
 発行所 福島県教職員組合  
 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141  
 [定価一部 20円]  
 編集・責任者 國分俊樹  
 e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp  
 http://www.f-t-u.or.jp  
 (この購読料は組合費に含まれています。)

ろうきんのキャッシュカードなら  
 ATMお引き出し手数料が

実質0円



東北労働金庫

## 9月26日 県教組大会オンライン討論会要旨

<p><b>西白支部 深澤郁雄代議員</b></p> <p>「1年単位の変形労働時間導入反対交渉」だけでは具体的な運動が見えにくい。変形労働に関する部分では、県教組が導入反対運動の先頭に立って、広く運動を展開するという回答をし、実行することを期待する。</p>	<p><b>両沼支部 星和雄代議員</b></p> <p>小規模校に勤務している。少人数という環境がコロナ禍でも予定通りの行事や活動を可能にしている。また、子どもたちの学習権を保障するばかりでなく、私たち教員の働き方改革を進めていく最も有効な政策とも言える。</p>
<p><b>双葉支部 柴口正武代議員</b></p> <p>先日、若い職員が「組合に入りたい」と言ってきた。本人からの組合加入の申し出だった。困っている職員、悩んでいる職員のために、それを解決すべく行動に移すことができるのが組合だ。分会・支部・本部連携の重要性を感じる</p>	<p><b>岩瀬支部 常松善道代議員</b></p> <p>教職員は、医療関係者と同時に子どもたちの発達や成長に大きくかわるエッセンシャルワーカー。子どもたちの豊かな成長と学び、安心して働ける職場を保障するためにも、少人数学級と教職員の定数改善は緊急の課題。</p>
<p><b>相馬支部 佐藤慎治代議員</b></p> <p>教育関係に関しては、教職員組合がリーダーシップをとって、多くの団体と連携しながら運動をすすめてほしい。緊急の課題については、要求の一致する多くの団体と連携し、取り組みの輪を大きく広げなければならない。</p>	<p><b>相馬支部 黒澤和美代議員</b></p> <p>今、民主主義が踏みにじられ、かつてない大変な時期。周りの人たちとの地道な問題意識の共有が大事。組合で「選挙闘争」という言葉は使うべきではない。組合としての活動と、政治活動は区別していく必要がある。</p>
<p><b>相馬支部 今野美保代議員</b></p> <p>職場から、教員免許更新制度をなくしてほしいという声が上がっている。これに対して組合の動きが見えない。子どもが安心して学ぶにはどうしたらよいか、地域・市民・県民に広く知らせ、みんなで一緒に行動していくべき。</p>	<p><b>耶麻支部 田中修身代議員</b></p> <p>喜多方市教委は、コロナ休校による学習の遅れを取り戻すために6~7月に7週連続土曜授業実施を発表した。変形労働制導入は教員だけ。教職員間の分断も招く要因にもなりかねないので導入には断固反対。</p>
<p><b>両沼支部 古川晃代議員</b></p> <p>今こそ20人学級の実現をめざして取り組みたい! 改正給特法7条の上限ガイドラインについては、週45時間、年間360時間までは大丈夫という間違った捉え方をされる危険性がある。きちんとアピールしていくことが大切。</p>	<p><b>伊達支部 酒井克幸代議員</b></p> <p>現在伊達支部では、福島支部との統合について話し合いを進め、両支部合同で執行委員会を開催している。今後も県教組が組合機能を維持できるように、そして若い世代にバトンを渡すために今できることを考え行動したい。</p>
<p><b>いわき支部 大内透代議員</b></p> <p>組合は「支え合いの精神」で成立している。互いの痛みを分かち合いながら必要な運動をつくり、地道に活動を続けていく。昨年、全国教研集會に参加し、ますます教育という仕事の奥深さや仲間づくりの大切さに気づかされた。</p>	<p><b>田村支部 佐藤恒代議員</b></p> <p>地教委交渉等、支部活動に対して、県教組本部でテコ入れをしてほしい。職場の組合員が「やっぱり組合って大事」「組合にしか言えない」「組合員ひとりひとりを助けられるのは組合」という実感を得られるような運動が必要。</p>
<p><b>南会支部 鈴木芳崇代議員</b></p> <p>南会津教育事務所があるにもかかわらず、悉皆研修が会津教育事務所と合同で開催され、移動時間が3~4時間かかる場合もある。南会津の人同士でグループ討議を行い、他地区との交流はなく合同開催の意味が無かった。</p>	<p><b>北会支部 猪股優子代議員</b></p> <p>北会支部では、年度初め、臨採部だった方が2人加入。臨採部と分会の力に学びたい。未組合員には、協力して実現する大切さを訴え、組合員には、自分が行動することで成長し、組合活動が楽しくなることを伝えていきたい。</p>



